

国語科 学 習 指 導 案

指導者 盛岡市立上田中学校 阿部 俊一

1. 育成を目指す言語能力
伝えたい自分の感想を明確にするとともに、相手や目的を意識しながら、構成を工夫して手紙文を書くこと。(2・3年「B 書くこと」ウ)

2. 単元に関する主たる評価規準

関心・意欲・態度	書くこと的能力	言語に関する知識・理解・技能
・「ゼブラ」または「字のないはがき」についての自分の感想を、手紙文にして書くとともに、相手の考えを受けて深めようとしている。	・手紙文の特徴を考え、伝えたい相手や伝える目的を意識し、伝えたい感想や深めたい点を明確にして手紙文を書くことができる。	・話し言葉と書き言葉の違いをふまえ、感想を深めるという手紙の目的や選んだ相手に合わせて、丁寧な言葉遣いで手紙を書くことができる。

3. 単元名
感想を交換しよう 感想を手紙の形で書く
(光村図書「国語2」/「三 心のきずなをとらえる」)

4. 単元設定の理由
ここでの学習は、「ゼブラ」「字のないはがき」を読んでもった感想を、相手を決めて手紙の形で書き送り、それに対する相手の感想(返事)を得て、さらに自分の感想を深めることを意図した学習である。事前の読む学習を受け、自分の感想を深めるという主体的な目的をもって書く学習に取り組む流れとなっており、生徒には学習活動の必然性を意識した取り組みが期待できると考える。手紙文は、相手(手紙の読み手)がはっきりしている点に特徴のある文章の形式であるが、その点でわかりやすく伝えることや相手に合わせた書き方を選ぶことを意識して工夫を考えさせるのに効果的と言える。自分の感想や考えを明確にさせながら、相手を考えて、筋道立ててわかりやすく伝えようとする意識や態度を育てたい。全体的には、自分の考えや思いを書き表したり話したりすることに、比較的抵抗感が少ない生徒たちである。反面、意図的に文章を構成して書くことや多様な目的に合わせて文章を書くことに対しては意識が薄く、文章の形態を意識して書く力や相手を意識して書く力が十分に身に付いているとは言い難い。また、ここに目を向けた場合、書くことそのものに対する学習意欲が乏しい生徒の存在も見受けられる。ここでは、手紙文に取り組ませることを通して、相手や目的を意識して書くことの大切さに気づかたい。また、学習意欲を喚起する教材等の工夫にも配慮したい。

5. 指導にあたって
手紙を書いて相手に自分の感想を読んでもらい、さらにそれに対して考えを書いてもらうという学習は、生徒によっては少なからず抵抗感をもつ者がいることが予想される。そこで、改めて感想を交流し合うことよさや学習の流れをはじめにしっかりとおさえ、学習活動の必然性をもたせたい。また、手紙を書くにあたっては、いくつかの例を示しながら、基本的な手紙文の形式にしたがって書くこと、自分の心に残った点を絞って感想を書くこと、感想を深めたい点を明らかにして返事をもたせたい。特に、個々に手紙を書く段階では、相手に読まれることを想定して工夫をすること、返事を書いてもらい感想を深める目的であることの2点に立ち返らせながら支援したい。さらに、手紙の下書きから清書に進む段階、返事を読んで感想を再び書く段階では、中間報告的に書いたものや書く構想を交流し合う中で、文章の条件に配慮しつつ、自分なりの工夫のしかたを見つけてさせたい。

6. 指導計画(3時間)

次	時	目 標
1	1 本時	手紙文の特徴、感想を伝えたい相手や感想を伝える目的を考えて、手紙の下書きをすることができる。
	2	手紙文の特徴、感想を伝えたい相手や感想を伝える目的を確認して、手紙文を推敲することができる。
2	3	手紙に対する返事に書かれた相手の感想を読み、深まりや広がりのある感想文を書くことができる。

7. 本時の指導

(1) 本時の目標

手紙文の特徴をおさえ、感想を伝えたい相手や感想を伝える目的を考えて、手紙の下書きをすることができる。

(2) 展開

段階	時	学習活動	評価の視点	指導上の留意点
導入	5	<p>1. 教師の「手紙による感想交流」の例を聞く。</p> <p>2. 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の感想を深めるために、相手を決めて手紙を書こう。 </div>		<p>1. 教材として卒業生が「走れメロス」を再読し、指導者と同じ感想を交流し、手紙文の例を参考に、感想を深める。学習意欲を喚起する。</p> <p>2. 1の学習活動からつなげて、学習課題を提示する。また、提示した学習課題について話し合い、単元的学習の流れや手紙文を書く目的を確認させる。</p>
課題追求	15	<p>3. 書くにあたって押さえるべき事柄を整理し、学習の見通しをもつ。</p> <p>4. 手紙文の書式をつかむ。</p> <p>5. 手紙文の主文を書くにあたっての3つの条件を確認する。</p>		<p>3. 手紙文の書式や留意点・主文を書くときの条件の2点について押さえるべきことを確認させる。</p> <p>4. 学習資料をもとに、書式・頭語と結びの対応・時候のあいさつについて確認したり、資料の活用について確認させたりする。また、主文は自分なりに工夫するべきことを確認させる。</p> <p>5. 4つの主文の例を提示し、それらを比較させることから、主文を書くときの条件として、自分の心に残った点を絞って感想を書くこと、感想を深めたい点を明らかにして返事をもたせようとする意図の選り方や配慮事項があることに気づかせる。</p> <p>6. 作品については、感想を深めたり求めたりしてみたい作品・より関心を持てた作品の観点から選ばせる。手紙を出す相手については、感想を深めたい点に照らして選ばせる。</p> <p>7. 原稿用紙に下書きさせる。手紙文の書式に従って書くことのほか、主文を書くときの3つの条件に立ち返らせながら書かせる。必要に応じて、期間指導を行う。</p>
課題解決	20	<p>6. 手紙を出す相手、手紙に書く感想の作品を選ぶ。</p> <p>7. 条件をふまえて、手紙文を書くことができる。</p>	<p>— 6,7 関心・意欲・態度 表の記述 —</p> <p>条件を考えて、わかりやすく豊かに伝えられるように書こうとしている。</p> <p>観察</p> <p>A: 自分の思いを伝えたり他人の考えを知ることを楽しみにして、進んで手紙を書こうとしている。 B: 4つの条件を考えて、なるべくわかりやすく豊かに伝えられるように書こうとしている。 C: 基本的な手紙の書式や主文の書き表し方について確認させる。印象に残った場面を整理させる。</p>	
まとめ	10	<p>8. 書いた手紙文を読み合い、条件を再確認するとともに推敲の視点をつかむ。</p> <p>9. 本時の学習を振り返り、自己評価表に記入する。</p> <p>10. 下書きを推敲するという次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>— 9 関心・意欲・態度 表の記述 —</p> <p>条件を考えて、わかりやすく豊かに伝えられるように書こうとしている。</p> <p>自己評価の分析</p> <p>A: 自分の思いを伝えたり他人の考えを知ることを楽しみにして、進んで手紙を書こうとしている。 B: 4つの条件を考えて、なるべくわかりやすく豊かに伝えられるように書こうとしている。 C: 基本的な手紙の書式や主文の書き表し方について確認させる。印象に残った場面を整理させる。</p>	<p>8. 早くできたものの中から、条件がよく守れているもの・相手を意識して表現などを工夫しているものを取り上げ紹介する。</p> <p>9. 興味を持てた点・難しく感じた点・取り組みを振り返った点から記述させる。</p> <p>10. 推敲の課題を挙げさせ、見通しをもたせる。</p>